

日本の未来は、「知」が拓く。

新*春 TOP座談会

創立140周年に向け、 明るいスタートを切る。

編集部 ■ まずは、校友の皆さんに、新春のごあいさつをお願いします。

日高理事長 ● 新年新春のお慶びを、申し上げます。

まもなく「入試」という、大変な時期に入ります。18歳人口がさらに減少する時期は6年後に近づいており、専修大学にとって今年度と来年度の志願者の動向、それを受けて戦略をどう展開するか、非常に重要になっています。

ソフト面は矢野学長がお話しになるので、私はハード面を紹介します。魅力あるキャンパスにすること、これが一番重要です。「魅力ある」とは教員から見ても、また学生から見ても「魅力ある」ことです。

さらに、誰もが高等教育を享受できる、「ユニバーサル・アクセス」の観点からいえば、今後は社会人から見て魅力あるキャンパスづくりも、重要と考えています。
矢野学長 ● 私は昨年9月に、日高先生から学長職をバトンタッチされたばかり

従来のカリキュラムを
変える試みも取り入れ、
教育の充実度を
上げていきたい。

——矢野建一学長

で、まだ全体の構想を十分に把握していませんが、大学を取り巻く状況を勘案しながら、改革を進めなければならないと思っています。

一つはカリキュラムです。大学卒業レベルの学力を学生に身につけさせて世に送り出すには、いままでのカリキュラムでは立ち行かなくなっています。そのため、昨年の春から、新しい学士課程の形をつくる作業を、急ピッチで進めています。

第一に、専修大学に入ってくる新入生の、勉強に対するモチベーションを、より高めるための「意識の転換」を図る教育です。

第二に、「教養教育」・「専門教育」に進む前に、「転換教育」および「導入教育」プログラムを組むことによって、教育の充実度を上げていきたいと考えています。私どもは、これを「四つの領域からなる三層構造」と呼んでおり、学生たちの多様なニーズ、あり方に対応していきたいと考えています。

そのほかに、ソフト面で一番急いでいるのは、学生たちがより積極的、自発的に学ぶ「アクティブ・ラーニング」であり、「ラーニング・コモンズ」という学びや考えを共有する場も必要になってくるでしょう。

そうすると、教室の作り方も、従来の大教室中心のものから変わってきます。建設中の神田5号館では、そういう新し

い試みを入れてくださいと、日高理事長にもお願いしています。

編集部 ■ 分かりました。大学自体が大きく変わりつつある中で、校友会としてどのようにサポートしていくか。甘竹校友会会長、お願いします。

甘竹校友会会長 ● 明けましておめでとうございます。

学生や教員にとって、
そして今後は社会人にとっても、
「魅力ある」キャンパスを
目指します。——日高義博理事長

校友会長としての方針は、三つあります。

- ①財政基盤の確立
- ②地方組織の充実
- ③大学への協力・支援

最初の財政基盤の確立については、大学当局から手厚い支援をいただいています。

地方組織については、数年かけてやっておりますので、充実してきたと思います。

大学への協力・支援についてですが、今年度は特に「スポーツの専修」を復活させたいと思っています。3年ぶりに「箱根駅伝」に出場しましたし、サッカー、卓球など、去年はすごい成績を取めました。今年度は弾みをつけ、目標は2020

いま、日本は、大きな転換期を迎えている。そうした中で、大学教育の果たす役割、「知の力」の果たす役割は、ますます重要になっている。折しも本学は、2020年の創立140周年に向け、「知の発信拠点」として、生田キャンパスと神田キャンパスの教育環境の整備に取り組んでいる。「知」をどのように強化していくか、未来を切り拓いていくか。本学のトップ、三人の方々に語り合っていた。司会 ■ 「アドニス」編集部

2020年の「東京オリンピック」に、
個人種目で10名ぐらい
専修大学から出すのが目標。

——甘竹秀雄校友会会長

年の「東京オリンピック」に個人種目で10名ぐらい専修大学から出したい。校友会としても体育協議会などと連携をし、支援をしていきたいと考えています。

2014年は「箱根駅伝」をスタートに、明るい年になると思っています。受験生もかなり増えるんじゃないかと、期待しています（笑）。

オリンピックといえば、まだあまり注目されてないけど、卓球部1年生の鈴木李茄君（商1）はユニバーシアードで去年、優勝しています。あれは、学生のオリンピックですからね。

編集部 ■ 将来、有望ですね。

甘竹校友会会長 ● いや、いや、もうオリンピックの第1候補です。まだ18歳ですから、「2020年」には、ちょうどいいですよ。

本学の原点を踏まえ、
21世紀に飛躍する。

編集部 ■ では、今回の本題です。大学教育はグローバルな大競争時代に入っています。そうした中で、本学はどうすべきか。一つの拠り所は、「21世紀ビジョン」ではないかと思っています。日高理事長から、



甘竹秀雄 日高義博 矢野建一

専修大学校友会会長
株式会社アマタケ 相談役

学校法人専修大学理事長
法学博士

第16代専修大学長
専修大学校友会学内支部前支部長
アイスホッケー部 部長

改めてご説明をお願いします。

日高理事長 ● 本学の「21世紀ビジョン」は、「社会知性の開発」という標語でまとめています。

専修大学は、4人の創立者たちによってつくられました。彼らの生き様や志については、130年余にわたって受け継がれてきました。「社会に対する報恩奉仕」

